

JBC 第47回全日本高校ボウリング選手権 8月7・8日 稲沢グランドボウル

男子・最終Gの300で須田風海音選手
女子・濱崎りおん選手が悲願の有終V

JOCジュニアオリンピックカップ「第47回全日本高校ボウリング選手権大会」は、台風6号の影響で沖縄県の選手の参加はかなわなかったが、男子213名、女子103名が参加して8月7、8の両日、愛知・稲沢グランドボウルで開催された。男子は1年生の須田風海音選手(群馬県立伊勢崎商業高)が最終Gのパーフェクトで劇的な優勝を飾れば、女子は濱崎りおん選手(神奈川県立綾瀬西高)が、最終学年で悲願の初優勝を飾った。



▲男子優勝の須田選手(左)と女子優勝の濱崎選手

男子

今年度のプロテストに合格、JPBAのワッペンを胸に臨んだ横内結樹(大阪・箕面学園高)が、予選(9G)を2109で首位通過、42ピン差の2位に須田選手がつけていた。決勝(3G)1G目、須田選手が259に対し、横内は266を打って逃げ切り態勢かと思われたが、2G目は横内が191と伸ばせなかったのに対し、須田選手が244を打って4ピン逆転し、トップの座を奪った。迎えた最終G、須田選手が「前の2Gをいいイメージで投げられたので、そのまま自分のボウリングをするだけ」と1フレからストライ



▼プロでの出場はすべてプレッシャーがあった。悔しいけど、今ある力は全部出せたいと思つたと横内

クラッシュをかける。横内も3フレからの6連発で食い下がったが、「300を出されては仕方がない」と敗戦を受け入れた。

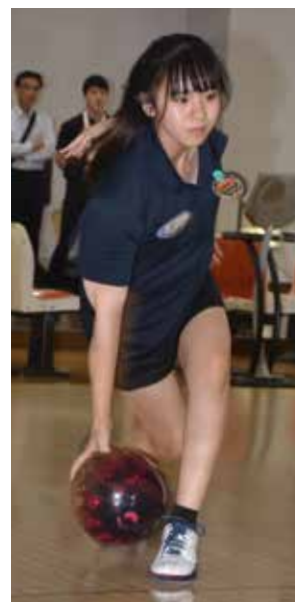


▲「予選の順位を落とさないように、集中して投げた」と星合選手、ひとつ順位を上げて3位入賞

見事なパーフェクトで優勝に花を添えた須田選手は「パーフェクトを意識したのは10フレ2投目。それまでは優勝することだけを考えていた。優勝の瞬間は、応援してくれているたくさんの人に恩返しができうれしさがあつた」と振り返った。

女子

予選で濱崎選手と今年プロ入りした緒方彩音(大阪・羽衣学園高)が首位争いを繰り広げたが、3回戦で713を打った濱崎選手が、52ピン差をつけて決勝に進んだ。3位には濱崎選手と同じ神奈川県立綾瀬西高の崎山穂花選手がつけたが、濱崎選手とは133ピン差がついていた。



▼妹の姫琉選手もH/G賞を取るなど急成長。「姉として負けなようにと思つて練習している」と濱崎選手

決勝1G目、緒方が149と落とし、差は96ピンと広がった。2G目も濱崎選手が223を打って、110ピン差で迎えた最終G「余裕はあるかなと思つたけど、レーンをつかめなくて…」ともたつく間に、緒方選手が5フレからストライクをつなげて猛追。最終Gに石田万音(今年プロ入り)に大逆転をされた「昨年のことを思い出して怖かつた」と振り返ったが、トータル2600で21ピン差振り切った。「緒方さんはプロだけど、それを意識するより自分らしいボウリングをしようと思った。最



後の10フレも、ミスさえしなければ勝てると思つて、落ち着いて投げた」と、悲願のタイトルを手にして喜びをかみしめた。



▲来年のプロテスト受験も視野に入れている濱崎選手「高校対抗は濱崎さんと一緒に優勝で終われるように練習を頑張りたい」



▲昨年中3で臨んだ中学選手権は準優勝だったが、高校選手権は1年目で制覇の須田選手
▶最終G、見事にパーフェクトを達成

JBC 第13回全日本小学生ボウリング競技大会 8月5・6日/稲沢グランドボウル

石原昭太郎選手が5・6年生を連覇

第13回全日本小学生ボウリング競技大会が、8月5日から2日間、稲沢グランドボウルを会場に、小学4年生から6年生までの男女153名が参加して、各部門予選6G、決勝3Gの9Gトータルで争われた。

6年生の部

男子は、昨年5年生の部で優勝した石原昭太郎選手(愛知・名古屋市立千鳥小)が、予選を快調なペースで2位に120ピン差をつけていた。決勝は石原選手が579とややペースを落とす間に、予選3位の田中謙臣選手(栃木・宇都宮市立錦小)に

704を打って追い上げられたが、1980で27ピン差振り切った。

女子は、神田結羽選手(愛知・みよし市立黒笹小)が予選を1030の1位でクリアした。決勝は予選4位の関根井文音選手(北海道・札幌市立開成小)が603を打って追い上げたが、神田選手は530とまとめて、トータル1560で優勝、関根井選手は3ピン及ばず2位だった。

5年生の部

男子は、予選と決勝で順位が大きく変動した。予選を1609で3位の井上真宏選手(神奈川・

伊勢原市立伊勢原小)が、決勝で647を打って、トータル1716で逆転優勝を飾った。予選を2位通過の國澤宇一選手(愛知・名古屋市立平子小)は、最終Gの167が響いて38ピン差の2位だった。

女子は、予選を972で1位の井村瑠菜選手(茨城・取手市立寺原小)が、決勝も安定した内容で507とまとめ、トータル1479で危なげなく優勝した。予選を5位の松尾悠月選手(愛知・瀬戸市立西陵小)が、決勝で512を打って、トータル1353で2位に食い込んだ。



▲各部門の優勝者、左から女子4年生の部・奥山、5年生の部・井村、6年生の部・神田、男子4年生の部・田中、5年生の部・井上、6年生の部・石原の各選手

4年生の部

男子は、予選後半に547を打って、1039の1位で決勝に進んだ田中陽翔選手(栃木・石橋北小)が、決勝も563と伸ばしてトータル1602で快勝した。予選は6位と出遅れた星野礼登選手(埼玉・川口市立前川東小)が、決勝で556と伸ばし、1509で2位に入った。

女子は、スタートから独走状態の奥山花蓮選手(三重・大津市立田上小)が、2位に約200ピンの大差をつけて決勝に進むと、決勝も496を打ってさらに差を広げ、トータル1554で圧勝した。奥山選手には離されたが、2位には1288で河西恵菜選手(京都・宇治市立小倉小)が入った。